

今回はここに注目

進路目標の設定

となりの学校の進路指導

file.4 : 宮古高校(沖縄・県立)

情報収集と対話を促す「第一志望宣言」で 早期の進路目標の明確化を図る

いかに進路意識を
早期から高めるかが課題

宮古島で唯一の普通科高校であり、生徒の多くが進学を希望する宮古高校。進路目標を明確にするため、2年生が学年末に進路目標を発表する「第一志望宣言」(以下、宣言)を実施している。

離島という地理的要因から進学先の情報に接しにくい同校において、目下の進路指導の課題は、生徒の進路意識をいかに早期から高めるかだ。「数年前まで3年夏になって志望校の検討を始める生徒も少なくなかった」と清家 洋先生。3年生に集中していた進路指導の内容を見直し、将来について考える取組の早期化に取り組んできた。宣言についてもその一環で、昨年度から内容を改善して実施している。

面談を充実させ
深い検討や強い決意へ導く

宣言の活動は、事前学習を含めた約2カ月間のプログラムだ(図1)。まず1月に、進路指導部が作成した実施の目的や目標、流れの解説動画を用いたオリエンテーションを各クラスで実施し、学年全体で目標を合わせた状態でスタートする。外部講師による講演会にて、1校だけではなく複数校の情報を比較・検討する意義や方法を学習。そのうえで生徒が各自で情報収集を進め、進路希望を明確にし、宣言書を作成する(図2)。

「しっかりと検討することで、『少人数での



第一志望宣言前の面談の様子。

研究が可能』『実務的なビジネススキルが身につけられる』などその進路の特色を踏まえた志望理由、進路実現のための行動目標として『英検2級を取得』『帰宅後はスマホの電源を切る』など具体的な内容を書くことができます」(清家先生、以下同)

作成した宣言書は、生徒が各自で、1人目は担任か副担任、2人目は学年主任か進路主任に提出し、簡単な面談を行って印鑑をもらう。以前は4人の教員の押印が必要だったが2人に減らし、その面談の質を高めることに重点を置いていたという。

「現状の成績との乖離があっても、生徒の希望を尊重しています。面談では『な

もっと
教えて!

進路指導のあれこれ

Q 3年間の進路指導計画
どう改善している?



A 3年間の体系的な進路指導を
目指し、第一志望宣言に関連す
るもの以外にも、昨年度から1・2学年を
対象に新たな取組をいくつか始めました。

例えば、従来から実施している地域の方
2名による職業人講話に加え、適性検査
や自分の興味・関心に基づいた職業調べ
を実施。多様な職業への理解を広げ、学
問系統との関連も学ぶ機会としました。
また、年度末に東京大学出前講座を開
催。「なぜ勉強するのか?」をテーマにデ
イスカッションを行い、生徒には「学習の
意欲がわいた」「社会に出たときの態度
も学べた」など好評を得ました。今年度
も、より効果的な実施になるよう内容の
改善や時期の調整をしています。

このほか、国語科の学校設定科目「文
章表現」のなかで将来の目標をプレゼン
テーションするという単元を活用して、
進路を考える機会とするなど、教科との
連動にも取り組んでいます。(清家先生)

Q 年40号以上発行
進路だよりの工夫は?



A 「ADELANTE(前進)」というタ
イトルのフォーマットを使い、イベ
ントや模試、奨学金などのお知らせが発
生する都度、各件の担当者が作成してい
ます。結果として年間40号以上の発行
となっています。情報の見逃しがないよ
う、基本的には一号あたり一種類の内容
にしています。(清家先生)

図1 第一志望宣言の概要(2024年度)

■目的

- (1)進路探究を通して、将来の目標ややるべきことを自覚する。
- (2)進路目標を明確にすることで、最終学年に向けての自覚を持つ。

■目標

- (1)複数の希望進路の情報を収集・比較・検討することができる。
- (2)第一志望の進学先または就職先について、「志望理由」を説明することができる。
- (3)第一志望合格に向けて、「実行すること」を宣言することができる。

■日程

- 1月22日 第一志望宣言オリエンテーション
 1月29日 外部講師(リクルート)講演 ※就職希望者は別ワーク
 2月19日 第一志望宣言下書き提出・清書の下書き
 2月26日 第一志望宣言清書提出
 3月12日 第一志望宣言リハーサル
 3月18日 進路学習会の中で第一志望宣言発表(本番)

「ぜ？」と根底にある考えを深く聞いたり、目標への納得感を確かめたりしています」
 同校には人前に出ることに抵抗感がない生徒が多いが、なかにはプレッシャーを感じる生徒もいるという。そこで昨年度、本番の前週、クラスごとのリハーサルを導入。BGMを流したリラクゼーションのなか、4人程度のグループで宣言を練習した。「緊張感が和らぎ、前向きな気持ちで本番に臨めたのではないかな」という。

本番の宣言は、1・2学年合同の進路学習会の一部という位置づけ。卒業生による進路講演会と3年生の合格体験談のあと、学科・学年混成グループで教室に

生徒の状況を把握し指導の改善に活かす

分かれて実施する。2年生が宣言を行い、それに対して1年生が質問を投げかける。「1年生には、知識や正解を聞くのではなく、相手の経験や思考を引き出すような質問をしよう」と伝えています。率直な質問に、2年生の本音や意志を垣間見ることがもできる貴重な時間となっています」

「理由を聞いたうえで応援する」という。進路指導部にとっては、宣言を通じて生徒の実態に触れることが、指導内容を改善するヒントを得る貴重な機会だ。「宣言書の面談では、入試制度に対する生徒の理解の穴や、進路選択の置きポイントが見えてくる。その内容を部内で共有し、次年度の改善を検討しています。生徒の第一志望を叶えることの前提として、ミスマッチのない進路選択が大切です。早期から進路意識を高め、じっくり検討して自分に合う進路目標を定められるよう、プログラムの改善を図っています」

図2 第一志望宣言書

ダウンロード可

表

- 生徒氏名。保護者のサインと印鑑も必要。
- 第一志望の学校名・学部・学科等、あるいは、企業名・職種等。
- 志望理由。強い思いを、自分の言葉で表現する。
- 第一志望を叶えるために実行すること。自分との約束として、具体的に書く。
- 教員の確認印。各生徒が教員2人と面談を行い印鑑をもらう。

裏

- 志望先データ。募集定員、学費、学校の特色などを集約。
- (進学希望者向け) 入試形式別に受験科目や配点、選考方法など。
- (就職希望者向け) 受験科目や必要書類など。

進路指導部の先生方



メンバーの入れ替わりが激しいなか、話し合いながら指導のブラッシュアップに取り組んでいる。「今後も生徒一人ひとりの自己実現を後押ししていきたい」と清家先生。

School Data : 1928年設立／普通科・文理探究科／生徒数678人(男子311人・女子367人)／進路状況(2025年3月卒業生)大学138人・短大6人・専門学校等61人・就職9人・その他20人

A 離島の学校の特徴として教員が3年という早いサイクルで入れ替わるため、引き継ぎ資料をしっかりと作成することを重要視しています。いっ何を行うかだけでなく、何のためにという目的と、何ができるようにするかという目標も資料に落とし込み、取組が形骸化しないよう対策しています。(清家先生)

Q 指導の質を維持するには？

